

社会学専攻における情報処理科目の学習構成

——広島修道大学人文学部人間関係学科での教育実践を事例として——

河野 貴子・相田 美穂

(受付 2014 年 10 月 30 日)

1. は じ め に

本稿の目的は、広島修道大学人文学部人間関係学科社会学専攻における情報処理科目の教育実践と学習構成を通して、社会学専攻として情報処理科目を設定している意義を明らかにすることである。

社会学専攻における情報処理科目は、次の三つの観点から位置づけられる。

一つ目は、社会から要請される人材の育成という観点である。ここでは、産業界と文部科学省による要請をとりあげる。グローバル化の進展により、情報化がますます高度に進み、情報技術を用いて効率化や高度化が図られ、産業社会では、開発、流通、教育などのあらゆる面において、情報化に対応することが求められているためである。

産業界では、社団法人日本経済団体連合会（以下、経団連）が2005年に、「産学官連帯による高度な情報通信人材の育成強化」、2007年では、産業競争力懇談会による「2025年の日本と産業界が求める人材像」において、高度 ICT（Information and Communication Technology）による技術革新に対応した人材像を提言している。文部科学省では、2002年の「情報活用能力の育成教育の情報化に関する手引き」、2008年の「学士課程教育の構築」、2010年では教科目標として、情報技術を活用する力を要求している。

二つ目は、私立大学における大学教育上の要請という観点である。公益社団法人私立大学情報教育協会（私情協）とは、「私立の大学・短期大学における教育の質の向上」「情報通信技術の可能性と限界を踏まえ」た「事業を通じて、社会の信頼に応えられる人材育成に寄与することを目的」[公益社団法人私立大学情報教育協会、2014]とした団体である。私情協は、文部科学省による2008年12月の答申「学士課程教育の構築に向けて」を受け、「分野別教育における情報活用教育の実態」を調査した。私情協が発表した調査結果の概要では、社会学分野では、「大学として必要な課題」として、「学習支援システムおよび支援者の確保が必要である」こと、「初年次教育で情報の剽窃、著作権、批判的読解などを少人数で教育することが必要である」ことなどを指摘している[公益社団法人私立大学情報教育協会、2012a]。

三つ目は、広島修道大学の社会学専攻における必要性である。社会学専攻では、「現代社会

で学問をしていく上でも大切なこと」として、「パソコンや携帯メディア」を開かれたコミュニケーションに利用できる知識とテクノロジーを身につけることを挙げている [広島修道大学教学センター教務課教務第 2 係, 2014: 65]。そのため、「社会学のイメージをつかまえる」 [広島修道大学教学センター教務課教務第 2 係, 2014: 65] ための「1 年次のコア科目」の中に情報処理科目を設定している。社会学専攻における「1 年次のコア科目」8 科目のうち、およそ 4 割にあたる 3 科目が情報処理科目である。「知識とテクノロジー」は、「社会学情報処理Ⅲ」「社会学情報処理Ⅳ」および「社会学情報処理特殊講義Ⅲ」「社会学情報処理特殊講義Ⅳ」を初めとする 2 年次以降の科目において実践されている。

本稿は、まず、社会学専攻科目のカリキュラム構成図に基づいて、広島修道大学社会学専攻における情報処理科目を位置づける。次に、事例として、一年次のコア科目 3 科目および、2 年次以降の「知識とテクノロジーを身につける」科目のうち、上述の 4 科目での実践を取り上げる。科目ごとの実践は、各科目での取り組みと、科目間・専任教員との連携という観点から考察する。最後に、社会学専攻における情報処理科目の位置付けは、情報処理教育はもちろん、学生の指導上、専任教員にとっても利点があることを明らかにする。

2. 社会学専攻における情報処理科目の位置づけ

ここでは、社会学専攻における情報処理科目の位置づけを、『学修の手引き』に掲載されている「社会学専攻のカリキュラム構成図 Ver. 2013」（以下、カリキュラム構成図）に基づいて行う。カリキュラム構成図は、「社会学専攻が中心となって提供している授業科目が示されて」 [広島修道大学教学センター教務課教務第 2 係, 2014: 65] おり、『学修の手引き』では、専攻生に対して、「自分自身の関心にもとづいて専攻科目を決める際に、ぜひこの図を参考に」 [広島修道大学教学センター教務課教務第 2 係, 2014: 65] するよう推奨されている。

社会学専攻のカリキュラム構成の中の情報処理科目には、1 年次必修科目になっているコア科目と 2 年次からのデータ処理・解析技術やコミュニケーションツールとして使いこなすための、「知識とテクノロジーを身につける」科目がある [広島修道大学教学センター教務課教務第 2 係, 2014: 67]。したがって、社会学専攻における情報処理科目は、「コア科目」および「知識とテクノロジーを身につける」科目という二つの観点により位置づけることができる。

社会学専攻の初年次のコア科目は、「修大基礎講座」、「初年次セミナー」、「社会調査概論」、「社会調査方法論」、「社会学情報処理Ⅰ」、「社会学情報処理Ⅱ」、「情報リテラシー」が設定されている [広島修道大学教学センター教務課教務第 2 係, 2014: 65]。コア科目のうち、情報処理科目として「社会学情報処理Ⅰ」、「社会学情報処理Ⅱ」、「情報リテラシー」の 3 科目が

ある。そして、これらの3科目は、専攻科目としての社会調査関連科目や、情報処理科目であるデータ処理・解析技術やコミュニケーションツールとして使いこなすための、「知識とテクノロジーを身につける」ための2年次以降の情報処理科目につながっている。

このように、社会学専攻での情報処理科目は、情報処理科目という枠を超えて専攻科目と関連づけられている。たとえば、社会学専攻では、情報処理科目は、社会調査関連科目とながり、社会調査を学ぶ上で重要なツールとなっている。

社会調査関連では、社会学専攻は社会調査士資格認定機構より「資格取得に必要な科目の設置機関」として正式に認定されている。学生は、必要な科目を履修し単位を認定されれば、社会調査士の資格取得が可能（2012年度生まで）である〔広島修道大学教学センター教務課教務第2係，2014: 68〕。その社会調査関連科目の社会調査士資格を、学生が取得するための科目として、「社会調査論Ⅰ」、「社会調査論Ⅱ」、「量的社会調査法」あるいは「質的社会調査法」や「量的調査演習Ⅰ」、「量的調査演習Ⅱ」あるいは「質的調査演習Ⅰ」、「質的調査演習Ⅱ」がある〔広島修道大学教学センター教務課教務第2係，2014: 68〕。そのため、社会学専攻では、社会調査士資格を取得しようとする学生に対して、2年次より情報処理科目である「社会学情報処理Ⅲ・Ⅳ」、「社会学情報処理特殊講義Ⅰ～Ⅳ」、「Web調査論Ⅰ・Ⅱ」を、資格取得認定科目と併せて履修、修得するよう推奨している〔広島修道大学教学センター教務課教務第2係，2014: 68〕。

資格に関連して、情報処理に関連する一般資格を取得しようとする場合にも、情報処理科目が役立つよう、科目は構成されている。社会学情報処理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび、社会学特殊講義Ⅰ・Ⅲ・Ⅳなどがそれにあたる。〔広島修道大学教学センター教務課教務第2係，2014: 68〕。

さらには、学生は、4年次に3年次までの研究を行った結果をまとめて論文として提出する。必修科目になっている「卒業論文」、「卒業研究」は、論文作成をとおして、学生が自ら課題意識を深め問題を発見し、その問題を解決する方法や能力も期待されている。社会学専攻における情報処理科目は、4年間、学生が社会学専攻において学んだことの集大成ともつながりがある〔広島修道大学教学センター教務課教務第2係，2014: 65〕。

社会学専攻における情報処理科目は、1年次に基礎的な知識や技能を身につけ、2年次以降は、情報化の進展に対応して情報通信技術の知識や技術を活用できるように各科目と関連づけられている。すなわち、社会学専攻における情報処理科目は、課題を理解し、問題を解決する能力や、コミュニケーション能力、そして社会的な方法や理論、知識と実践的応用力を備える科目とも関連するように設定されている。

つまり、社会学専攻で学ぶ学生にとって、情報処理科目は、学修上欠かせないものとして位置づけられている。

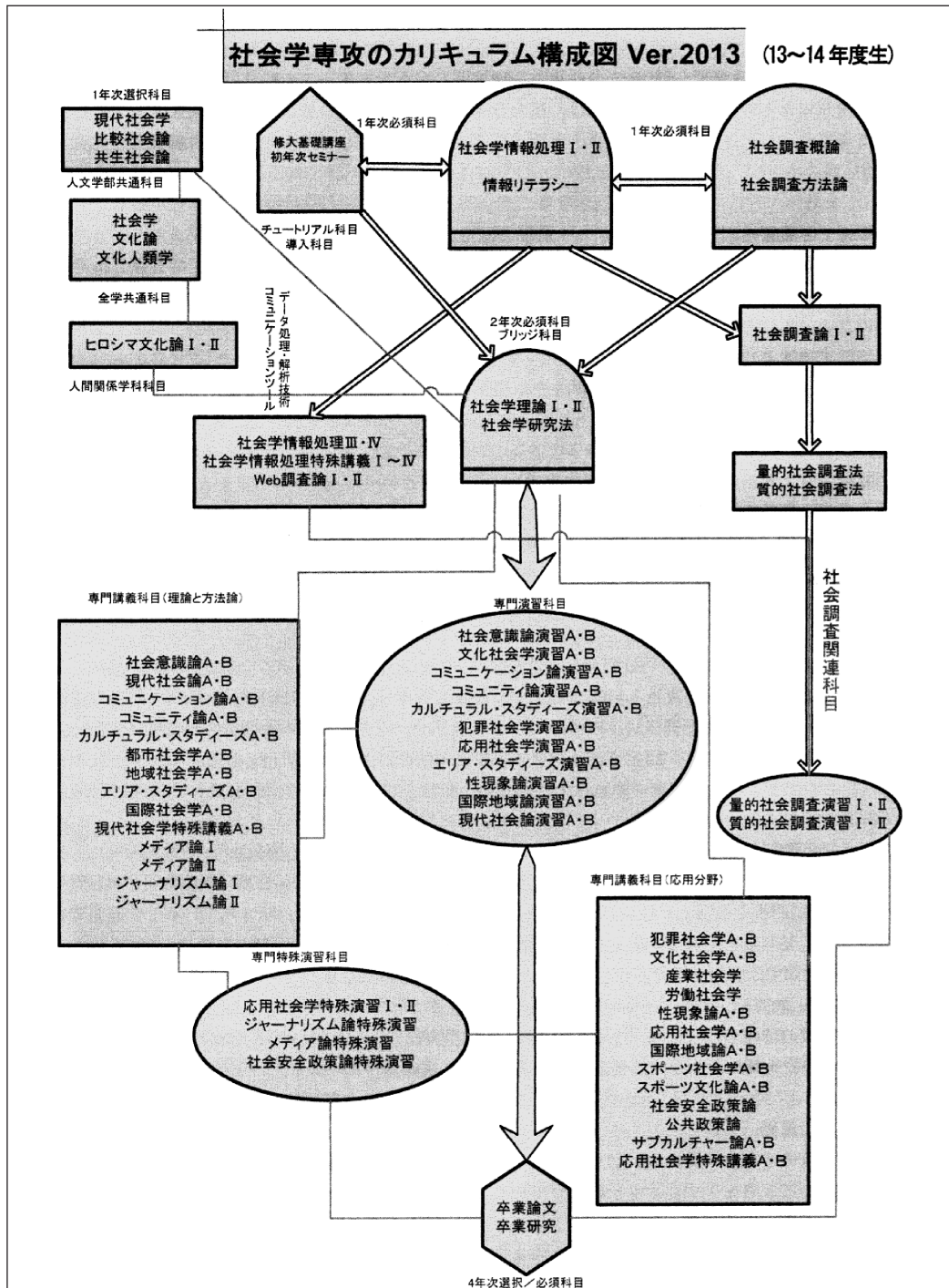


図 1 「社会学専攻のカリキュラム構成図 Ver. 2013 (13~14年度生)」
出典：[広島修道大学教学センター教務課教務第 2 係, 2014: 67]

3. 情報処理科目での教育実践

3-1 コア（中核）科目での実践

この節では、社会学専攻におけるコア科目としての「社会学情報処理Ⅰ」「社会学情報処理Ⅱ」「情報リテラシー」での実践を通じて、課題を明らかにする。

3-1-1 社会学情報処理Ⅰ

1) 科目の概要

社会学情報処理Ⅰでは、使用ソフトウェアを Microsoft Word（以下 Word）とし、以下に示す3つの利点から、ビジネス文書を事例に用いている。

利点の一つ目は、ビジネス文書には決まった形式（書式）があるということである。ビジネス文書は、学生が「文書には目的と書式がある」という基本を知る手掛かりとなる。二つ目は、ビジネス文書の作成には、箇条書きや図など、Wordの基本的な機能の使用が求められるということである。三つ目は、2年次以降の情報処理科目に直接活かせるという点である。社会学専攻では、2年次以降、サーティファイ Word 文書作成1級、日本商工会議所 PC 検定文書作成1級をはじめとした、情報処理関連の資格取得をめざす科目が設定されている。したがって、ビジネス文書を通して Word を学ぶことは、学生にとって、2年次以降の学習につながる情報処理技術を身につけることにつながる。

2) 現状と課題

2)-1 現状

社会学情報処理Ⅰでは、教員2名での講義を行っている。主として、一人が講義を進行し、もう一人が机間巡視を行う。教員は、学生の取り組みを講義中に直接把握し、その場で学生に個別に指導を行っている。2014年前期での学生アンケートの自由記述欄によれば、教員二人体制に対して学生は高い満足と評価を示した。個々の学生の達成度は、講義のテーマごとや、期末試験時に学生に文書を作成させることによって把握し、指導につなげている。

2)-2 課題

文書を作成する上で欠かせないのが、キーボードを使用した文字入力（タイピング）である。しかし、タイピング能力（速度）は、学生ごとに異なる。2014年度前期の測定では、もっとも速い学生で10分あたり900字以上、遅い学生で200字台という開きがあった。そこで、全履修者のタイピング能力を、一定の水準まで引き上げる取り組みが必要である。

3-1-2 社会学情報処理Ⅱ

1) 科目の概要

「社会学情報処理Ⅱ」は、初年次後期の必修科目である。この科目では、数量データを扱う

際の基本を学ぶ。テキストには Excel の機能と操作方法を画面写真付きで解説したものを使用している。画面写真は、学生が自習する際の助けになる。さらに、学生が授業の進行に残された場合も、テキストを参照して円滑に学習に復帰することができる。

私情協が公開している「社会学教育における情報教育のガイドライン」（以下、私情協ガイドライン）〔公益社団法人私立大学情報教育協会，2012b〕では、3つの「到達目標」を掲げている。そのうち、【到達目標 1】の【到達度】-③において、「基本的な情報処理」として、「表計算」が挙げられている。「社会学情報処理Ⅱ」は、社会学専攻の学生に求められる「基本的な情報処理」としての「表計算」を身につけるためのコア科目である。

2) 現状と課題

2)-1 現状

Excel に対して、学生は苦手意識を持ちやすい。2014年度での初回の講義時に、学生の挙手により苦手意識の有無を確認したところ、再履修生を含むほとんどの学生が、Excel は「苦手手」であるとした。

「社会学情報処理Ⅱ」は、「同Ⅰ」同様、二人体制での講義を行い、苦手意識が強い学生に対して、その場でのきめ細かな対応と指導を行っている。さらに、学生の理解を助けるため、テキスト外の学習を取り入れている。たとえば、講義の初めの数回は、簡単な表の作成、四則演算、基本的な関数の使用など、Excel の基本的な機能を復習する。テキストを使用する講義では、データ数が多く、学生には実際の難易度以上に複雑に感じられる可能性がある。そこで、テキストと同じ学習内容を、より分かり易い独自の事例で学ぶ時間を設けている。学習の到達度は、講義時に提出する実技課題と、期末試験での実技で行っている。

2)-2 課題

学生がもつ苦手意識の払拭と、苦手意識に起因する 2 年次以降での情報処理科目の履修の回避の改善が課題である。苦手意識の払拭については、2)-1 で示した取り組みを継続する。さらに、学生の学習意欲を向上させるため、2 年次以降に履修する科目での検定取得を目標に設定させることを検討していく必要がある。

3.-1-3 情報リテラシー

1) 科目の概要

私情協ガイドラインでは、【到達目標 1】の【到達度】-①として、「多様なフィールドやメディアに偏在する情報について、その所在・構成・背景を理解し、利用できる」、【同】-②として、「情報の信頼性を識別でき、著作権や情報の剽窃などに関する倫理を理解して利用できる」ことを挙げている。「情報リテラシー」は、情報機器の種類、特性、使い方を学び、それらを踏まえて、学生が個別に情報機器を購入する際の選び方、そして、私情協ガイドラインに挙げられている情報に関する理解と利用、および利用する際の倫理を身につける科目であ

る。情報リテラシーは、社会学専攻の学生が、研究を行う際に必要となる情報の利用に関する知識と技術の基本を学ぶ科目として位置づけられている。

2) 現状と課題

2)-1 現状

社会学専攻における情報処理のコア科目3科目のうち、情報リテラシーは、唯一、一つのクラスを教員が一人で担当している。他の2科目との違いは、学生が実技のみならず、情報に関する知識を学ぶ時間が比較的多いことである。

毎回の講義では、学生のタイピング能力の向上を図るため、講義ごとの中心的な学習内容に加えて、タイピング練習用のソフトとウェブサイトの併用による、タイピングの訓練を実践している。2014年度の学生アンケートでは、複数の学生が、タイピング練習に対して高い満足度を示した。

学生の習得状況は、学習課題ごとの小レポートと期末試験で確認している。小レポートの一つでは、研究に必要となる参考文献リストを作成する。試験では、学生が身につけた知識と、学習内容を実際の場面に引きつけて活用する力を、記述問題を通じて把握している。

2)-2 課題

1クラスにつき担当教員1名という体制は、実技が中心となる課題（たとえば、文献の検索から文献リストの作成）では、学生に対する個別の指導が十分とはいえない可能性がある。また、初年次の学生が社会学専攻において学習を進める際には、タイピング能力の伸長が重要であるにしても、タイピングの時間が、他の学習内容を圧迫するとすれば、本末転倒となる。

情報処理科目間で指導上の課題を共有し、さらなる連携を図ることで、情報処理に関連する知識と技術を、学生がさらに伸ばしていけるカリキュラム構成が必要である。

3.-2 知識とテクノロジーを身につける実践

この節では、2年次からの情報処理科目である、データ処理や解析技術、コミュニケーションツール科目としての、「社会学情報処理Ⅲ」、「社会学情報処理特殊講義Ⅲ」、「社会学情報処理特殊講義Ⅳ」の実践を通して、現状を整理し課題を明らかにする。

これらの科目では、社会から要請される人材像として、産業界と文部科学省による提言に基づいた実践を行っている。今日、さまざまなメディアによって伝えられた情報がデジタル化され、情報通信ネットワークを通じて、社会のあらゆるところで高度情報化が進展している。そして、情報化が想像を超える速度で進展し、情報技術を用いて効率化、高度化が図られ、産業社会では、開発や生産、流通やサービス、教育などあらゆる面において、高度な情報化に対応することが求められている。

経団連（2005）によれば、「産学官連携による高度な情報通信人材の育成強化」で、高度

ICT 情報通信技術人材として、具体的には産業界が至急に必要としており、高度な IT の専門能力を持ち、経済社会の基盤となるソフトウェアの開発や、システムを用いて、企業の業務の効率化や事業革新につなげることができる人材を提言している。

そして、現在、高度 ICT 人材の育成機関として期待が高まっている、大学教育の現状と企業が求める人材のニーズとのギャップを明らかにし、今後、大学における実務教育機関に向けた、産学官の連帯が必要である。

また、2007年11月27日、産業競争力懇談会によれば、「2025年の日本と産業界が求める人材像」で、情報化を支える ICT 情報通信技術における技術革新は、電子機器や情報通信産業の成長産業を生み出すだけでなく、企業の経営や手法を大きく変革させていると言っている。

こうしたことから、京都府産業教育審議会（2002）によれば、「情報教育の在り方について」で、求められる人材も、業種や分野において必要な能力に加え、高度な情報化に対応する知識や技術を備えた情報活用能力を習得することが必要と言っている。

文部科学省（2002）は、その「情報活用能力について」で、情報教育をバランスよく育成する目的の観点として3つの要素があげられている（表1）。「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」の能力を重視している。

また、経済産業省（2005）においても、職業や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的能力として、「社会人基礎力」として3つの力と12の要素を提唱している。前に踏み出す力（主体性、働きかけ力、実行力）、考え抜く力（課題発見力、計画力、創造力）、チームで働く力（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）、企業と学生や若者を取り巻く環境化により、「基礎労力」、「専門知識」に加えそれらをうまく活用していくために必要な能力として示している。

そして、文部科学省（2008）は、学生が卒業までに身につけておくことが望まれる「学士力」として、「学士課程教育の構築」（表2）で、4つの分野を提言し、知識や理解、汎用的

表1 情報活用能力の育成教育の情報化に関する手引き

情報活用の実践力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題や目的に応じた情報手段の適切な活用 ・ 必要な情報の主体的な収集、判断、表現、処理、創造 ・ 受け手の状況などを踏まえた発信や伝達
情報の科学的な理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解 ・ 情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価や改善するための基礎的な理論や方法の理解
情報社会に参画する態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会生活の中で情報や技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解 ・ 情報モラルの必要性や情報に対する責任 ・ 望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

文部科学省（2002）より作成

表2 情学士課程教育の構築

知識や理解	・多文化、異文化に関する知識の理解 ・人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
汎用的技能	・コミュニケーションスキル ・数量的スキル ・情報リテラシー ・論理的思考力 ・問題解決力
態度や志向性	・自己管理能力 ・チームワーク、リーダーシップ ・倫理観 ・市民としての社会的責任 ・生涯学習力
総合的な学習経験と創造的思考力	・自らが立てた新たな課題を解決する能力

文部科学省（2008）より作成

技能、態度や志向性、総合的な学習経験と創造的思考力、ICT（情報通信技術）を利用し情報を収集し、分析した知識や技能を活用して問題解決する情報リテラシーなどの能力を要求している。

また、文部科学省「新学習指導要項情報」（2010）によれば、教科目標として、「情報および情報技術を活用するための知識と技術を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる」ことが目標と言っている。

そして、情報技術は、情報分野の知識を伝達するだけではなく、それを用いて操作方法を習得し、自分のものとして知識や技術が使えるようにし、問題解決力につながるようにICT（情報通信技術）を活用していく必要がある。

私情協は、2012年の「学士力に求められる情報活用能力の考察」で、大学での情報リテラシー教育は、インターネット利用、表計算、レポート作成、プレゼンテーションやファイル管理などを中心とした情報機器を使う技能の修得に比重が置かれていたと言っている。そして、2012年、学士力として求められる情報リテラシー能力の実践状況のアンケート調査結果が公表され、大学教育に求められている情報リテラシー教育のガイドラインがまとめられた。アンケートの対象は、2011年6月に加盟校教員50名、インターネットによるアンケート方式でおこなわれ、2011年7月には、加盟大学292校（回答119校）に調査した。その調査で、上位の結果は、情報倫理、ワープロソフト、表計算、プレゼンテーション、セキュリティ、コンピュータの理解と操作となっている。

3.-2-1 社会学情報処理Ⅲ

1) 科目の概要

「社会学情報処理Ⅲ」は、情報社会の急速な発展に伴い、ビジネス社会においても要求される操作能力や、情報を分析、データの整理、表現など、総合的に表計算処理の操作が自由にできると同時に、表計算システムをより便利に活用することを目標に学習している。

私情協によれば、「社会学教育における情報教育のガイドライン」[公益社団法人私立大学情報教育協会, 2012b] で 3 つの到達目標がある。その中の【到達目標 2】の【到達度】-①, データを実証的に分析, 整理・加工できる, 【到達度】-②は, データを分析するソフトを使用できると提示されている。

2) 現状と課題

2)-1 現状

学生の中には Excel に関して苦手意識がある学生もあり, 2013 年度, 初回の授業で聞き取りをしたところ, 「社会学情報処理Ⅱで難しかったから」と操作方法が難しいと思っている学生も少なくない。

その, Excel に関しては, 関数や計算式, マクロの活用になると操作方法に自信がなく苦手意識がある学生もいる。そのため, 授業への取り組みが消極的にならないように, 実習をととして学生に操作手順や方法を提示し, その後, 理解度に応じた説明をしながら, 繰り返し課題学習をしてもらい, 自ら考えて問題を解決し, 操作方法や内容を理解できているかを確認している。そして, 毎回復習も行い, 表計算の内容を忘れず使いこなせるようにし, スキルアップにもつなげている。

到達度確認は, 講習時の実技課題提出と, 前期試験の実技試験により行っている。

2)-2 課題

学生の中には, Excel に関して苦手意識がある学生が, 授業への取り組みが消極的にならないように目標の設定も重要である。そして, 自ら考えて問題を解決する実践的な力をはぐくむことにより, 学生が習得した操作を自分のものとして用いるようになれば, 問題解決の道具として, できる, 使いこなせる能力につながり, 苦手意識が少なくなる可能性があると考えられ, 対処方法は, 2)-1 のように, 実習をととして確認している。

Excel に関して目標や苦手意識を減らせれば, 操作の情報処理能力もアップし, 履修率もあり, 興味や関心が深まり, 資格取得の目標も設定できる。さらに, Excel 表計算 1 級の履修にもつながる。

3.-2-2 社会学情報処理特殊講義Ⅲ

1) 科目の概要

「社会学情報処理特殊講義Ⅲ」は, 後期集中講義科目である。この科目は企業などの実践で必要とされている文書作成, 表計算, プレゼンテーションや習得した技術を駆使し, ビジネス文書や資料を Office ソフトの Word や Excel を利用し作成できることを学び, 日商 PC 検定試験 1 級 (文書作成) の資格取得を目標にしている。

2) 現状と課題

2)-1 現状

日本商工会議所によれば、日商 PC（文書作成）1 級検定は、企業実務において情報通信技術を活用し実践的な知識やスキルを修得するとともに、ビジネススキルの育成を図ることを目標にした日本商工会議所が主催している公的資格である。

そのため、パソコンの操作だけではなく、与えられた課題や問題文で示されている内容を読み取り、効率的に活用するように、操作の手順を先に説明し、ビジネス文書の形式や、箇条書き、図など、テキストの問題をとおして何度も繰り返して習得している。そして、「社会学情報処理特殊講義Ⅲ」は、二人体制での講義を行い、わからない点を個別に指導を行うことができる。また、学生は就職活動に役立てるためや、単位認定のためや資格取得表彰などの目的もある。

到達度の確認は、講習時の実技課題提出と実技で課題知識文書の提出を行っている。

2)-2 課題

講義の中で出席、遅刻をしないように指導はしているが、1 限目は「朝がつらい」という理由で嫌う学生もおり、履修登録だけ行い一度も出席しない学生や、遅刻が多い学生もいる。そのため、受講状況や学習状況を専任教員と連携することで、学生の意識も変わりより細やかで漏れのない指導につながる。

3.-2-3 社会学情報処理特殊講義Ⅳ

1) 科目の概要

「社会学情報処理特殊講義Ⅳ」は、前期集中講義科目である。この科目は、情報化のニーズに基づき技能を、より効果的に活用するための表計算、ビジネス図表、帳票、データベースに関する実践的機能を駆使して効率化することができることが認定基準となっている株式会社サーティファイが実施している民間試験の、Excel 表計算処理技能認定試験 1 級に合格することを目標にしている。

2) 現状と課題

2)-1 現状

「社会学情報処理特殊講義Ⅳ」は、「同Ⅲ」同様、二人体制で講義を行っている。Excel に関しては、「社会学情報処理Ⅲ」同様、学生の中には Excel に関して苦手意識がある学生もいる。そのため、技能の格差を少しでも縮めることも必要なため、基礎的な操作方法を身につけて、疑問点や機能のわからないところをきめ細かい対応ができる。

さらに、テキストは問題集を使用し、より実践的に実習ができるように、とくに、計算式や関数はわかりやすく説明し、実技も繰り返し問題をするすることで、操作方法や機能を習得し、使えるという経験をすることにより、学習結果や理解度を高めるようにしている。そして、

検定試験に合格するという目的意識があることで、学習の意欲や持続性に役立っている。また、学生は、単位認定のためや資格取得表彰などの目的もある。

到達度の確認は、テキストの実技問題の確認や、実技、知識検定試験を行っている。

2)-2 課題

Excel に関しては、苦手意識のある学生は、計算式や関数では、操作方法に意識が向き、偶然答えが表示されると、計算式を理解していないため応用が利かず何度も同じミスを繰り返している。そのため、2)-1 で示した取り組みをしている。

「社会学情報処理特殊講義Ⅲ」同様、1 限目は「朝がづらい」という学生もあり、履修をしていても来ない学生や、遅刻しその後授業にでてもわからないことが続き欠席するようになる。そのため、受講状況など専任教員と連携をとり細やかな指導につなげる課題もある。

3.-3 学生の指導における連携の実践

この節では、情報処理科目での学生の指導における連携の実践として、情報処理科目間のつながり、専任教員にとっての利点という二つの視点から、情報処理科目での連携の実践を明らかにする。

3.-1 および3.-2 では、情報処理科目としての教育実践という視点から、情報処理科目の実践を検討した。そこで明らかになったことは2点ある。一つは、広島修道大学社会学専攻が設定している「コアカリキュラム構想」における「コア科目」としての初年次必修の情報処理科目での実践である。もう一つは、学問をする上で大切なことであると位置づけられている、「「ソーシャル・ツール」として開かれたコミュニケーションに利用できる知識とテクノロジーを身につける」科目としての、2 年次以降の社会学専攻の情報処理科目での実践である。

社会学専攻としての情報処理科目の位置付けをみると、情報処理科目を設定する利点には、学生が研究に必要となる情報処理の知識と技能を、段階を追って身につけられるということを挙げられる。この利点は、情報処理科目間のつながりとして位置づけることができる。さらに、社会学専攻での実践において、特筆すべき利点として、専任教員との連携による専任教員による学生の指導につながっているという側面がある。これは、専任教員にとっての利点として位置づけることができる。

3.-3-1 情報処理科目間のつながり

初年次必修のコア科目である「社会学情報処理Ⅰ」「社会学情報処理Ⅱ」では、それぞれ主に使用するソフトウェアとして、Word、Excel を学ぶ。学生がこれらの科目を積極的に学んでいくための動機付けとして、2 年次以降に社会学専攻の学生が履修可能な科目を案内している。初年次の学生に対して効果のある案内を行うために、事前に2 年次以降の情報処理科目を履修し、単位を取得した学生に対して、雑談に交えて聞き取りを行った。対象の学生は、

聞き取り時には4年生で、WordとExcelのそれぞれ検定1級取得をめざす科目（「社会学情報処理特殊講義Ⅰ」、および「同Ⅳ」）の単位を認定され、それぞれで検定1級を取得している。

学生の語りによれば、検定をめざす科目を履修してよかったことは、単位取得による利点と表彰制度による利点の二つがあった。単位については、科目が集中講義であるため、後期の履修を組むのが「楽になった」という。意味を聞くと、夏休み期間に取得した2単位分の科目は、後期の履修計画から差し引くことができるので、授業のない曜日を増やせるということだった。学生は、自主的に学習を行うための、まとまった時間をより多く確保できるということである。さらに、Word、Excel級の取得に対して、それぞれ科目の単位とは別に、各2単位が認定されるのも、学生は「おいしい」という。表彰制度では、学生は、Word、Excel各1級を取得することによって、それぞれ3,000円分ずつ、計6,000円分の図書カードをもらったので、すぐに欲しい本を買うことができた、と語っていた。

聞き取りによって得られた2年次以降の学生の「生の声」を、教員の口からにせよ耳にすることは、初年次の学生にとっては、情報処理科目を積極的に学習する動機となっている。2014年度後期の例では、初年次生の一人などは、2014年度後期の「社会学情報処理Ⅱ」の初回授業終了後に、検定科目の詳細を聞くため担当教員に質問をしに来たほどである。

2年次以降の情報処理科目の履修モデルを、初年次必修科目で学生に案内したのは、情報処理科目担当教員間での連携の実践を踏まえてのことである。2014年度の「社会学情報処理特殊講義Ⅲ」では、2年次の履修者の人数・割合が少なかったことが、4年生に聞き取りを行い、初年次生にコア科目内で、聞き取り内容に基づく「生の声」を伝えた動機である。

2年次以降の情報処理科目での履修状況を情報処理科目担当の教員間で共有することで、初年次必修の情報処理科目を通じて、学生に2年次以降の情報処理科目の履修を促すという実践が実現した。その実効性については、今後の履修状況の推移および関連性を明らかにしていく必要がある。

3-3-2 専任教員にとっての利点＝情報処理科目との連携による学生の指導

社会学専攻での情報処理科目の担当者は3名で、すべて非常勤教員である。社会学専攻の情報処理科目では、非常勤教員と専任教員との間で、情報の共有が行われ、専任教員による学生の指導という実践につながっている。

初年次必修である「社会学情報処理Ⅰ」「情報リテラシー」「社会学情報処理Ⅱ」では、担当教員は、初年次の学生と、講義のたびごと定期的に接触し、接点を持つ。つまり、情報処理科目担当教員は、情報処理科目を通じて、学生の出席状況を含めた学生の様子を、細やかに把握することができる。

そこで、社会学専攻では、初年次必修の情報処理科目における学生の出席状況を、専任教員と共有するという実践を行っている。教員は、大学生活に円滑に入っていくのが困難な学

生について、個別に指導を行う必要があるためである。しかし、情報処理科目担当教員は非常勤であるため、在校するのは基本的には講義時に限られる。

そこで、専任教員は、初年次必修の情報処理科目での学生の様子、出席状況を、情報処理科目担当教員と共有・連携することによって、学生の指導につなげることができる。

学生に対する専任教員による初年次での早期の指導は、学生が情報処理科目のみならず、他の科目も含めた大学での学習への復帰を促している。社会学専攻では、情報処理科目担当教員から専任教員に対する学生の学習状況の発信と共有という連携は、学生の細やかな指導に対する専任教員にとっての利点となっている。

社会学専攻における情報処理教育は、情報処理担当教員間・情報処理担当教員と専任教員との連携によって、学生に対する個別できめ細かな指導という実践につながっている。

4. 課題とまとめ

本稿では、広島修道大学社会学専攻が、専攻として独自に設定している情報処理科目の意義を明らかにした。はじめに、社会学専攻科目のカリキュラム構成図を通して、社会学専攻においては、情報処理科目が社会学を学ぶ学生にとって欠かせないものとして位置づけられていることを述べた。次に、社会学専攻での情報処理科目の位置付けという観点から、「コア科目」および「パソコンや携帯メディア」を開かれたコミュニケーションに利用できる知識とテクノロジーを身につける」科目での実践を、具体的な科目での取り組みを通して論じた。最後に、社会学専攻として情報処理科目を設定している意義を、情報処理科目間の連携および専任教員との連携という科目での実践を通じて、情報処理科目のみならず専任教員による学生の指導に対する利点という観点から明らかにした。

本稿での考察を通じて、社会学専攻における情報処理科目での二つの課題が明らかとなった。一つは、学生が意欲的に2年次以降の情報処理科目を履修する仕組みを整える必要性である。これは、情報処理科目間、および情報処理科目担当教員と専任教員間でのさらなる情報の共有と連携を通じて実現可能である。もう一つは、学生の学習意欲を伸ばす工夫である。取り組みのありかたは、初年次の「コア科目」である情報処理科目での学習の達成度と、2年次以降の履修状況や達成度との関連を分析することで見えてくるものである。

広島修道大学社会学専攻での情報処理科目の位置付けとは、カリキュラム構成上で欠かせないものであるばかりではない。社会学専攻の情報処理科目では、科目での実践において、情報処理科目間および情報処理科目担当教員と専任教員との情報共有と連携が行われている。社会学専攻での情報処理科目は、専任教員にとっても学生に対するきめ細かな指導につながり、科目を超えた役割を担っている。

情報処理科目の重要性は、産業界・教育界での位置付けにおいても、今後ますます増しこそすれ、衰えることはない。そこで、社会学教育における情報処理科目の役割に関する継続的な調査・研究の必要性は高まっていくことになる。

本稿は、そのはじまりの一步目である。

参 考 文 献

広島修道大学教学センター教務課教務第2係, 2014, 『2014学修の手引き人文学部』広島修道大学

参 考 U R L

- 株式会社サーティファイ, 2014, 「検定試験について試験概要」, (2014年9月26日取得, <http://www.sikaku.gr.jp/ns/el/exam/content>)
- 経済産業省, 2005, 「社会人基礎力」, (2014年5月26日取得, <http://www.meti.go.jp/press/2012/07/20120731003/20120731003-1.pdf>)
- 公益社団法人私立大学情報教育協会, 2012a, 「分野別教育における情報活用教育の実態」, (2014年10月24日取得, <http://www.juce.jp/edu-kenkyu/2012-jittai.pdf>)
- _____, 2012b, 「社会学分野における授業での情報活用能力育成の取り組みについて：社会学分野での取り組み状況」, (2014年10月24日取得, <http://www.juce.jp/computer-edu/pdf2/05syakai.pdf>)
- _____, 2012c, 「学士力に求められる情報活用能力の考察」, (2014年9月14日取得, https://www.juce.jp/LINK/pdf/teigen_40.pdf)
- _____, 2014, 「公益社団法人私立大学情報教育協会とは」, (2014年10月24日取得 <http://www.juce.jp/gaiyo/index.html>)
- 京都府産業教育審議会, 2002, 「情報教育の在り方について」, (2014年5月26日取得, <http://www.kyoto-be.ne.jp/koukyou/sansin/jouhouteigen-hon.pdf>)
- 文部科学省, 2002, 「情報活用能力について」, (2014年5月26日取得, http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2012/06/15/1322132_3_1.pdf)
- _____, 2008, 「学士課程教育の構築」, (2014年5月26日取得, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/siryu/attach/1247211.htm)
- _____, 2010, 「新学習指導要項情報」, (2014年10月28日取得, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1282000.htm)
- 日本商工会議所, 2014, 「日商 PC 検定とは」, (2014年9月26日取得, <http://www.kentei.ne.jp/pc/>)
- 産業競争力懇談会, 2007, 「2025年の日本と産業界が求める人材像——大学大学院教育プロジェクト」, (2014年9月30日取得, <https://www.cocn.jp/>)
- 社団法人日本経済団体連合会, 2005, 「産学官連携による高度な情報通信人材の育成強化」, (2014年5月26日取得, <http://www.keidanren.or.jp/japanese/policy/2005/039/honbun.pdf>)

SUMMARY

Learning construction of the subjects on information processing skills and literacy in the course of sociology: a case study on educational practices at the course of sociology, department of human relations, faculty of humanities and human sciences, Hiroshima Shudo University

Takako Kouno and Miho Aida

The objective of this study is to clarify the significance of subjects related to information processing skills and literacy set up in the course of sociology by looking precisely at the educational practices and learning construction of the subjects on information processing at the course of sociology, department of human relations, faculty of humanities and human sciences, Hiroshima Shudo University.

The curriculum in the course of sociology is consisted under the ideas called core curriculum. Within the eight subjects located in the first year core subjects to capture the basic image of sociology, we have three subjects on information processing which are information processing in sociology I information processing in sociology II information literacy.

In the course of sociology, it is considered that the students should learn the knowledge and technology with which they can use PC and mobile tools for opened communication. This is the most important for the students to do academic work in the contemporary society. For these purposes we set up the following subjects information processing in sociology III information processing IV and specific lecture on information processing in sociology III specific lecture on information processing in sociology IV.

These classes have been managed looking at the skills required when the students start to work in companies and so on and we make the students to set up their own goal based on the ideal personnel required in the industrial sectors in terms of information processing skills and practical knowledge and capacity for problem resolution.

The curriculum construction and its practice on information processing skills' subjects are not only to teach how to proceed information but also leads to instruction on managing students' life when we collaborate with the other subjects' professors. This will be a vantage point.